

編集後記

『戦史研究年報』第8号をお届けいたします。

『戦史研究年報』は前号においてその装いを新たにいたしました。本号においては更に読み易さなどを考慮して、掲載「論文」の注の文末一括表記を改め、各頁毎の脚注にいたしました。

「論文」は、戦史部員の平成15年度の研究成果の中から3篇を掲載いたしました。氏家論文は、国民保護の視点から有事法制の史的考察を行ったものです。国民保護に関する関心が高まる中、本論文が今後の国民保護をめぐる議論の参考となれば幸いです。鈴木論文は、『戦史研究年報』第6号に掲載いたしました「日本特別掃海隊の役割」に続く研究で、朝鮮戦争における日本特別掃海隊の全体像を明らかにするとともに、日本特別掃海隊の果たした意義について考察したものです。中村論文は、日本海軍の特殊潜航艇の実態について、その成長、進化する過程を参加した全作戦を検証しつつ再検討したものです。いずれも未開拓の分野であり、今後の研究の進展が期待されます。

「研究会記録」はイリノイ大学アーバナ・シャンペーン校歴史学部教授ジョン・リン先生による「戦争を正確に理解することの困難さー教訓は学べるかー」を紹介いたしました。リン先生は、米国国際軍事史学会会長を務めるとともに、フランス軍事史の権威であり、本報告は、戦争の現実と戦争に関する認識という観点から、軍事的な過去の経験を教訓として学ぶことがいかに難しいかを述べられ、今後の軍事史研究のあり方に問題を提起されております。

「国際会議参加報告」は、日本で開催された戦争史日韓学術会議（平成15年度）、モロッコで開催された第30回国際軍事史学会大会、フランスで開催されたヨーロッパ東南アジア研究会議、及び韓国で開催された戦争史日韓学術会議（平成16年度）の概要報告をそれぞれ掲載いたしました。また戦史部長及び戦史部員による「国際会議発表論文紹介」は3編を掲載いたしました。

「史料紹介」は、「武力攻撃事態等における国民の保護のための措置に関する法律」の成立に伴い国民保護が各方面で関心を向けられていることから、都市防空及び住民避難に関する史料2点を選定し、史料の写真とともに紹介させていただきました。

「活動報告」は、戦史関連研究会、オーラル・ヒストリーによる史資料整備の新しい取り組み、防衛研究所図書館史料閲覧室の活動状況などを紹介しております。

最後に、本号発行のために御協力いただきました関係各位に厚く御礼申し上げ、「編集後記」といたします。

(弓削 欣也)